

福岡県の居住者の「2016年の暮らし向き」に関する調査

2016年2月



調査概要

1. 調査方法

弊社アンケートモニター「コムネット」登録者に対するインターネット調査

2. 調査対象

福岡県在住の20歳以上の男女

3. 調査時期

平成27年12月8日（火）～12月24日（木）

4. 調査規模

494サンプル

【標本構成】

■性	件数	構成比(%)
男性	244	49.4
女性	250	50.6
全体	494	100.0

■年齢	件数	構成比(%)
20代	94	19.0
30代	100	20.2
40代	100	20.2
50代	100	20.2
60代	79	16.0
70代以上	21	4.3
全体	494	100.0

■居住地	件数	構成比(%)
福岡市	271	54.9
福岡市以外都市圏	114	23.1
その他福岡県	109	22.1
全体	494	100.0

■ライフステージ	件数	構成比(%)
未婚	159	32.2
既婚で子どもなし	55	11.1
既婚で小学生以下の子どもがいる	95	19.2
既婚で中学生以上の扶養をしている子どもがいる	71	14.4
既婚で扶養する子どもなし(子育て終了)	114	23.1
全体	494	100.0

■世帯年収	件数	構成比(%)
200万円未満	63	13.2
200～300万円未満	62	13.0
300～400万円未満	74	15.5
400～500万円未満	77	16.2
500～600万円未満	53	11.1
600～700万円未満	34	7.1
700～800万円未満	37	7.8
800～900万円未満	22	4.6
900～1000万円未満	25	5.3
1000～1500万円未満	25	5.3
1500万円以上	4	0.8
全体	476	100.0

【報告書の見方】

- 本文及び図中に示した調査結果の数値は小数点以下第2位を四捨五入しているため、全項目の回答比率の合計が100.0%とならない場合や合計値に誤差が生じる場合がある。
- 複数の回答を求めた質問では、回答比率の合計が100.0%を超えることがある。
- 報告書中の図表では、コンピューター入力の場合、回答選択肢の表現を短縮している場合がある。

1. 暮らし向きの変化

暮らし向き判断指数は昨年的大幅ダウンから一転し、15ポイント近く上昇。リーマンショック以降では最も高い数値を示した。

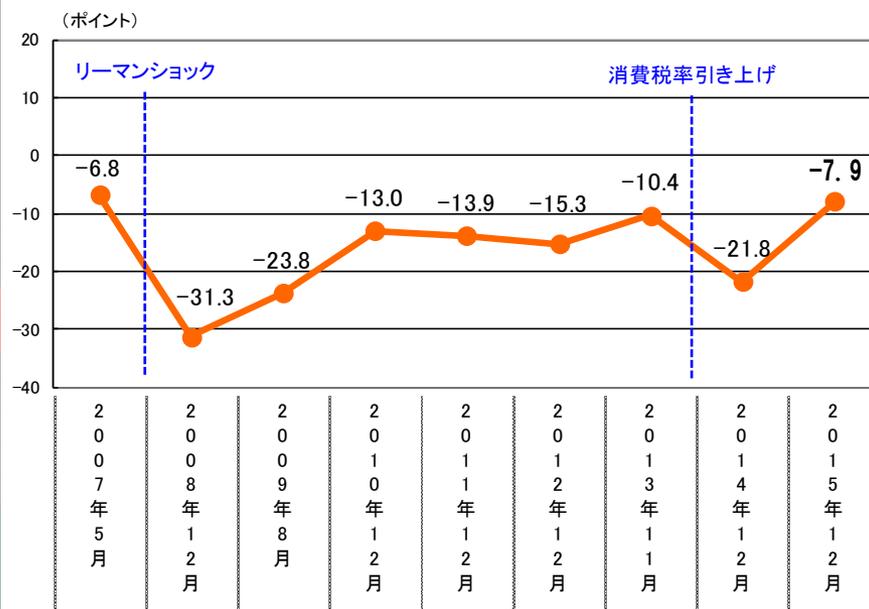
1年前と比べて、暮らし向きが「良くなった」「どちらかというと良くなった」と回答した割合から、「悪くなった」「どちらかというと悪くなった」と回答した割合を減じた『暮らし向き判断指数』は、マイナス7.9ポイント。前年のマイナス21.8ポイントから大きく上昇した。

- 性別に見ると、女性は男性に比べて、暮らし向き判断指数のマイナス幅がやや小さい。
- 年代別で、20代は唯一暮らし向き判断指数がプラスである。
- 世帯年収別に見ると、300万円以上と300万円未満で、暮らし向き判断指数にギャップが見られる。

◆ 1年前と比べた暮らし向きの変化【単一回答】

		調査数	【%】				【%】		暮らし向き判断指数	
			良くなった	どちらかというときと良	どちらともいえない	どちらかというときと悪	悪くなった	肯定層		否定層
全体		494	4.0	11.1	61.7	15.6	7.5	15.2	23.1	-7.9
性別	男性	244	4.5	9.0	61.9	15.2	9.4	13.5	24.6	-11.1
	女性	250	3.6	13.2	61.6	16.0	5.6	16.8	21.6	-4.8
年代別	20代	94	7.4	17.0	59.6	11.7	4.3	24.5	16.0	8.5
	30代	100	7.0	13.0	59.0	13.0	8.0	20.0	21.0	-1.0
	40代	100	2.0	9.0	61.0	20.0	8.0	11.0	28.0	-17.0
	50代	100	1.0	11.0	61.0	17.0	10.0	12.0	27.0	-15.0
60代以上	100	3.0	6.0	68.0	16.0	7.0	9.0	23.0	-14.0	
世帯年収別	300万円未満	125	3.2	7.2	55.2	16.8	17.6	10.4	34.4	-24.0
	300～500万円未満	151	3.3	13.9	61.6	17.9	3.3	17.2	21.2	-4.0
	500～700万円未満	87	3.4	10.3	65.5	14.9	5.7	13.8	20.7	-6.9
	700～900万円未満	59	6.8	15.3	59.3	13.6	5.1	22.0	18.6	3.4
	900万円以上	54	1.9	13.0	70.4	11.1	3.7	14.8	14.8	0.0

◆ 暮らし向き判断指数の推移



* 肯定層＝「良くなった」+「どちらかというときと良くなった」
 否定層＝「悪くなった」+「どちらかというときと悪くなった」
 暮らし向き判断指数＝肯定層-否定層

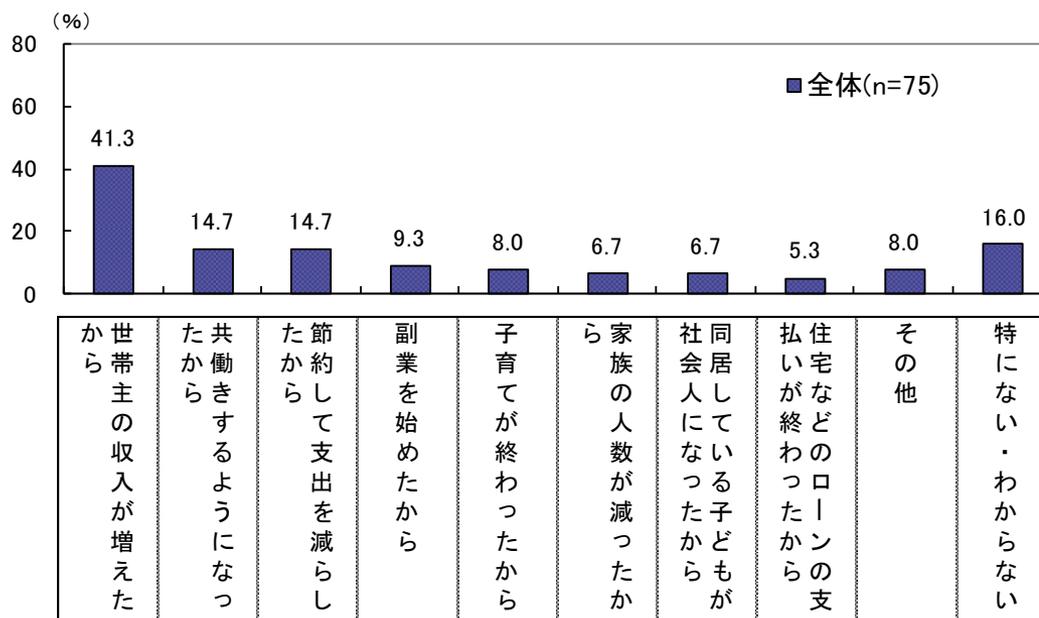
2. 暮らし向きが良くなった理由

暮らし向きが良くなった層の約4割は世帯主の収入増が理由。

1年前と比べて、暮らし向きが「良くなった」「どちらかという良くなった」と回答した人にその理由を聞いたところ、「世帯主の収入が増えたから」の割合が41.3%で最も高く、次いで「共働きするようになったから」「節約して支出を減らしたから」14.7%、「副業を始めたから」9.3%の順であった。

・性別、年代別、世帯年収別の分析は、サンプル数が少ないため省略した。

◆暮らし向きが良くなった理由【複数回答】



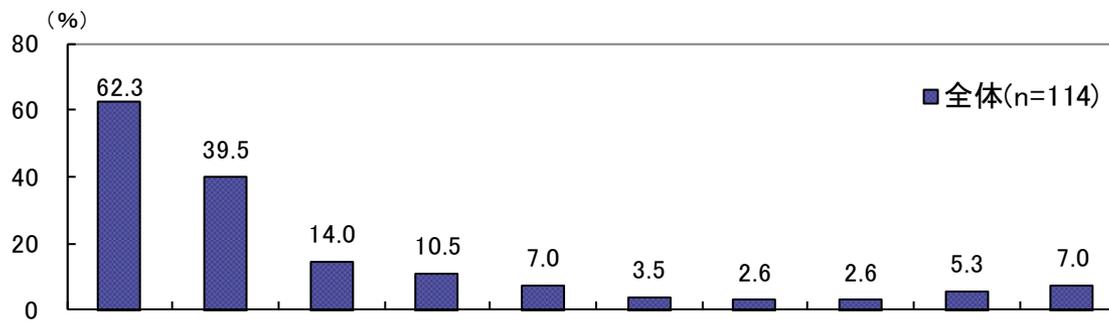
3. 暮らし向きが悪くなった理由

世帯主の収入減と2014年の消費税率引き上げが暮らし向き悪化の2大要因。

1年前と比べて、暮らし向きが「悪くなった」「どちらかという悪くなった」と回答した人にその理由を聞いたところ、「世帯主の収入が減ったから」の割合が62.3%で最も高く、次いで「2014年に消費税率が引き上げられたから」が39.5%、「教育費が増えたから」14.0%の順であった。

- ・性別に見ると、男性は女性に比べて「2014年に消費税率が引き上げられたから」の割合が高くなっている。
- ・年代別、世帯年収別の分析は、サンプル数が少ないため省略した。

◆暮らし向きが悪くなった理由【複数回答】



調査数		世帯主の収入が減ったから	2014年に消費税率が引き上げられたから	教育費が増えたから	家族の病気治療や介護が必要になったため	共働きをやめたから	家族の人数が増えたから	別居が必要になったから	送りが必要になったから	住宅などのローンの支払いが始まった(増えた)	その他	特にない・わからない
全体		114	62.3	39.5	14.0	10.5	7.0	3.5	2.6	2.6	5.3	7.0
性別	男性	60	60.0	45.0	18.3	10.0	1.7	-	1.7	3.3	5.0	6.7
	女性	54	64.8	33.3	9.3	11.1	13.0	7.4	3.7	1.9	5.6	7.4

4. 2016年の暮らし向き予想

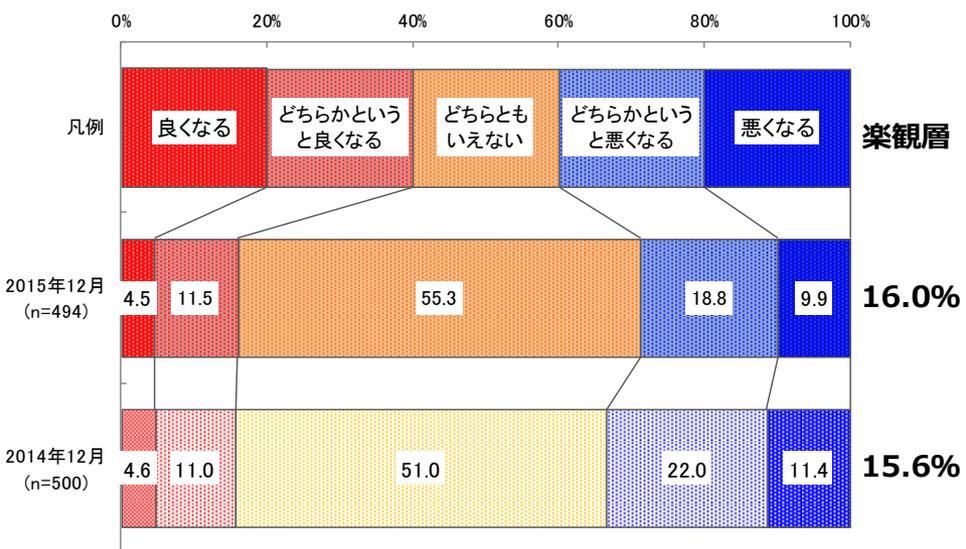
年代が上がるほど、自分自身の暮らし向き・世の中の景気、いずれも悲観的な割合が高くなっている。

2016年の『自分自身の暮らし向き』について、「良くなる」「どちらかという良くなる」と回答した楽観層の割合は16.0%、「悪くなる」「どちらかという悪くなる」と回答した悲観層の割合は28.7%となっており、悲観層が楽観層を上回っている。昨年調査との比較では、楽観層の割合は変わらず、悲観層の割合は4.7ポイント低下した。

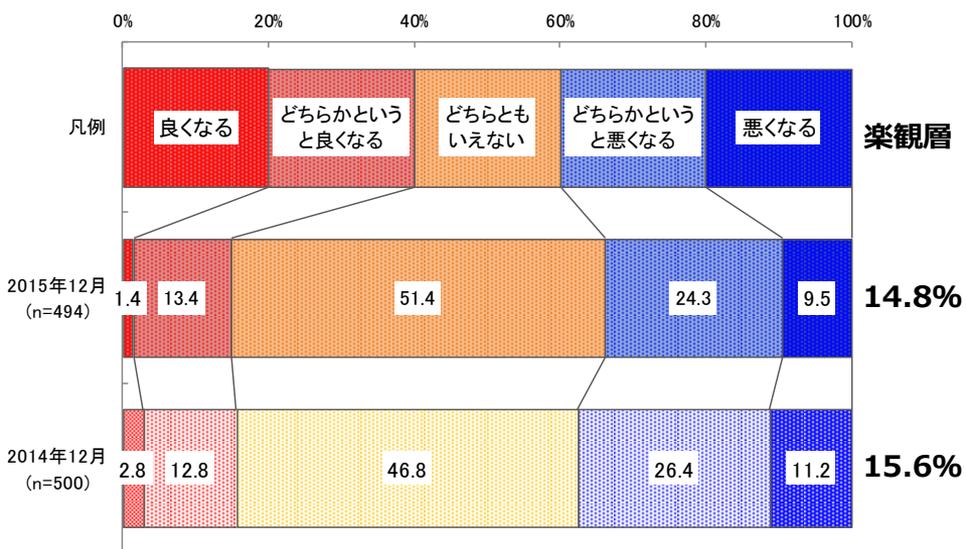
また、2016年の『世の中の景気』についても楽観層の割合は14.8%、非楽観層の割合は33.8%となっており、悲観層が楽観層を上回る結果であった。昨年調査と比べると、自分自身の暮らし向きと同様に、楽観層の割合はほとんど変わらず、悲観層の割合が3.8ポイント低下している。

- 性別では、大きな差は見られない。
- 年代別に見ると、自分自身の暮らし向きについて、20代は他の年代に比べて楽観層の割合がやや高く、年代が上がるにつれて悲観層の割合が高くなっている。また、世の中の景気についても、年代が上がるにつれて悲観層の割合が高くなっている。
- 世帯年収別では、自分自身の暮らし向きについて、300万円未満の層は他の層に比べて悲観層の割合がやや高くなっている。

◆2016年の自分自身の暮らし向き予想【単一回答】



◆2016年の世の中の景気予想【単一回答】



* 楽観層＝「良くなる」＋「どちらかという良くなる」、悲観層＝「悪くなる」＋「どちらかという悪くなる」

4. 2016年の暮らし向き予想

◆2016年の自分自身の暮らし向き予想【単一回答】

◆2016年の世の中の景気予想【単一回答】

		調査数	【%】				【%】		
			良くなる	どちらかという と良くなる	どちらかという と悪くなる	悪くなる	楽観層	悲観層	
全体		494	4.5	11.5	55.3	18.8	9.9	16.0	28.7
性別	男性	244	6.6	11.9	50.8	20.5	10.2	18.4	30.7
	女性	250	2.4	11.2	59.6	17.2	9.6	13.6	26.8
年代別	20代	94	9.6	16.0	58.5	12.8	3.2	25.5	16.0
	30代	100	6.0	12.0	62.0	9.0	11.0	18.0	20.0
	40代	100	4.0	14.0	50.0	24.0	8.0	18.0	32.0
	50代	100	2.0	10.0	54.0	20.0	14.0	12.0	34.0
	60代以上	100	1.0	6.0	52.0	28.0	13.0	7.0	41.0
世帯年収別	300万円未満	125	3.2	10.4	48.8	17.6	20.0	13.6	37.6
	300～500万円未満	151	4.6	11.3	58.3	20.5	5.3	15.9	25.8
	500～700万円未満	87	2.3	8.0	60.9	23.0	5.7	10.3	28.7
	700～900万円未満	59	5.1	16.9	55.9	11.9	10.2	22.0	22.0
	900万円以上	54	1.9	16.7	53.7	18.5	9.3	18.5	27.8

		調査数	【%】				【%】		
			良くなる	どちらかという と良くなる	どちらかという と悪くなる	悪くなる	楽観層	悲観層	
全体		494	1.4	13.4	51.4	24.3	9.5	14.8	33.8
性別	男性	244	2.0	15.2	49.2	23.4	10.2	17.2	33.6
	女性	250	0.8	11.6	53.6	25.2	8.8	12.4	34.0
年代別	20代	94	2.1	12.8	59.6	20.2	5.3	14.9	25.5
	30代	100	1.0	12.0	59.0	17.0	11.0	13.0	28.0
	40代	100	2.0	15.0	48.0	26.0	9.0	17.0	35.0
	50代	100	1.0	17.0	46.0	24.0	12.0	18.0	36.0
	60代以上	100	1.0	10.0	45.0	34.0	10.0	11.0	44.0
世帯年収別	300万円未満	125	0.8	12.0	46.4	20.0	20.8	12.8	40.8
	300～500万円未満	151	2.6	11.3	55.6	27.8	2.6	13.9	30.5
	500～700万円未満	87	1.1	10.3	57.5	23.0	8.0	11.5	31.0
	700～900万円未満	59	-	22.0	45.8	23.7	8.5	22.0	32.2
	900万円以上	54	-	20.4	44.4	25.9	9.3	20.4	35.2

* 楽観層＝「良くなる」+「どちらかというと良くなる」、悲観層＝「悪くなる」+「どちらかというと悪くなる」

発行元：株式会社ジーコム

福岡市中央区天神4丁目1-1 第7明星ビル7F

TEL 092-761-0221

FAX 092-761-0228

URL : <http://www.gcom-net.co.jp/>

E-mail : inq@gcom-net.co.jp